

夢の架け橋 (皐月)



『母』

皆さんのお母さんはどんな人ですか？
私の母は一言で言うと「働き者」です。二十歳から家事に子育て
仕事に明け暮れ、子供が大きくなったら今度は孫の世話。
そして私がお店を始めたことで、毎日お店の掃除をしてくれます。
おかげで五年経った今も綺麗で、私はいつも母に感謝しています。

今回は『母』に関する事でちよっと感動したことをお話します。
それは高校の入学式の日の事です。

入学式自体は式典と言う形でごく一般的に執り行われたのですが、式が終わり、クラスに別れて担任の先生のお話を聞く時間がありました。他のクラスは教室に誘導されたのですが、娘のクラスは視聴覚室のような部屋に案内され、担任の自己紹介の後、「保護者の方が全員集まるのは今日しかないと思うのでこの機会に是非御覧頂きたいものがあります。」と約8分のビデオを観せてくださいました。

映し出された映像は文字だけでは読み進むうち目頭が熱くなりとても感銘を受け、気が付けば周りのお母さん方も泣いている様子が伺えました。

皆さんはどんなことを感じましたか？

五月九日は母の日です。日頃言えない思いを言葉にして伝えてみませんか？

(恭)

5月の休み

5月9日(日)・18日(火)・24日(月)・29日(土)

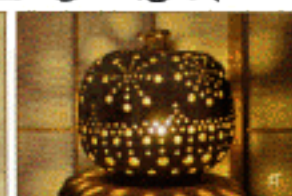
6月の展示予定

5月30日(日)
～6月12日(土)
MARIKO 書彩展

6月13日(日)
～6月26日(土)
みぼりん 絵手紙展

5月の展示予定

(陶展)土と遊ぼう 広瀬隆道・恵美



5月2日(日)～5月14日(金)

ひとり言

『情けは人の為ならず』『情けは人のためではなく、いずれは巡って自分に返ってくるのであるから、誰にでも親切にしておいた方が良い』と言うのが本当の意味であるが、「情けは人のためにならない」と思っている人が若者を中心に多いと聞いた事があります。

意味を取り間違えているのは仕方ないとして、人に良い事をすればいずれはその善行が自分のところに返ってくるのであれば、大いに良い事をしようかな…！(笑)
一日一善 今日良い事が出来ますように。(ゆ)



(水彩画) はな～
伴野重由

5月15日(土)
～5月28日(金)

『僕を支えた 母の言葉』

僕が3歳のとき

父が亡くなり

その後は母が女手ひとつで僕を育ててくれた
仕事から帰ってきた母は

疲れた顔も見せずには晩ごはんをつくり

晩ごはんを食べた後は内職をした

毎晩遅くまでやっていた母が

頑張ってくれていることはよくわかっていた

だけど僕には不満もいっぱいあった

学校から帰ってきても家には誰もいない

夜は夜で母は遅くまで内職

そんなに働いているのに

わが家は裕福じゃなかった

遊園地にも連れて行ってもらえない

ゲームセンターで遊ぶだけの

小遣いももらえない

テレビが壊れた時も

半年間買ってもらえなかった

僕はいつしか母にきつく当たるようになった

「おい」とか「うるせー」とか

なまいきな言葉を吐いた

「ばばあ」と呼んだこともあった

それでも母は

こんな僕のために頑張ってくれた

そして

僕にはいつもやさしかった

小学校6年のとき

はじめて運動会に来てくれた

運動神経の鈍い僕はかけっこでビリだった

悔しかった

家に帰って母はこう言った

「かけっこの順番なんて気にしない

お前は素晴らしいんだから」

だけど僕の悔しさは

ちっともおさまらなかった

僕は学校の勉強も苦手だった

成績も最悪

自分でも劣等感を感じていた

だけど母はテストの点や通知表を

見るたびにやっばりこう言った

「大丈夫、お前は素晴らしいんだから」

僕には何の説得力も感じられなかった

母に食ってかかったこともあった

「何が素晴らしいんだよ!？」

どうせ俺はダメな人間だよ」

それでも母は自信満々の笑顔で言った

「いつかわかる時が来るよ

お前は素晴らしいんだから」

僕は中学2年生になったころから

仲間たちとタバコを吸うようになった

万引きもした

他の学校の生徒とケンカもした

母は何度も学校や警察に呼び出された

いつも頭を下げて

「迷惑をおかけして申し訳ありません」と

あやまっていた

ある日のこと

僕は校内でちょっとした事件を起こした

母は仕事を抜けだし

いつものようにあやまった

教頭先生が言った

「お子さんがこんなに、悪い子、になった

のは、ご家庭にも原因があるのではないで

しょうか」

その瞬間、母の表情が変わった

母は明らかに怒った眼で

教頭先生をにらみつけきつぱりと言った

「この子は悪い子ではありません」

その迫力に驚いた教頭先生は言葉を失った

母は続けた

「この子のやったことは間違ってます

親の私にも責任があります

ですがこの子は悪い子ではありません」

僕は思いっきりビンタをくらったような
そんな衝撃を受けた

僕はわいてくる涙を抑えるのに必死だった

母はこんな僕のことを本当に

素晴らしい人間だと思ってくれてるんだ…

あとで隠れてひとりで泣いた

翌日から僕はタバコをやめた

万引きもやめた

仲間たちからも抜けた

その後中学校を卒業した僕は

高校に入ったが肌が合わなくて中退した

そして仕事に就いた

その時も母はこう言ってくれた

「大丈夫、お前は素晴らしいんだから」

僕は心に誓った

「ここからは僕が頑張るって」

お母さんに楽をしてみようぞ」

だけどなかなか仕事を覚えられなくて

よく怒鳴られた

「何度おなじこと言わせるんだ！」

「すこしは頭を働かせろ！」

「お前は本当にダメなやつだな！」

怒鳴られるたびに落ち込んだけど

そんなとき僕の心には母の声が聞こえてきた

「大丈夫、お前は素晴らしいんだから」

この言葉を何度も噛み締めた
そうすると元気がわいてきた

勇気もわいてきた

「いつかきつと僕自信の素晴らしいさを証明

してお母さんに見せたい」

そう考えると僕はどこまでも頑張れた

仕事を始めて半年くらい

経ったときのことだった

仕事を終えて帰ろうとしたら

社長がとんできて言った

「お母さんが事故にあわれたそうだ

すぐに病院に行きなさい」

病院に着いたとき

母の顔には白い布がかかっていた

僕はわけがわからなくて

何度も「おかあさん！」と叫びながら

ただただ泣き続けた

僕のために身を粉にして働いてくれた母

縫いものの内職をしているときの

母の丸くなった背中を思いだした

母は何を楽しみにして

頑張ってくれたんだろう？

これから親孝行出来ると思ったのに

これから楽させてあげれると思ったのに

葬式のあとで親戚から聞いた

母が実の母でなかったことを

実母は僕を産んだときに亡くなったらしい

母はそのことをいつか僕に
言うつもりだったんだろう

もしそうだったら僕はこう伝えたかった

「血はつながってなくても

お母さんは僕のお母さんだよ」

あれから月日が流れ

僕は35歳になった

今、あらためて母にメッセージを送りたい。

(裏面につづく)



『お母さんへ』

お母さん

僕とは血がつながっていなかったんだね
そんな僕のためにお母さんは
昼も夜も働いてくれたんだね

そしてお母さんはいつも言ってくれた

『お前は素晴らしいんだから』って

その言葉がどんなに僕を救ってくれたか
どんなに僕を支えてくれたか

あれから僕なりに成長し

今は結婚して子供もいるよ

まだまだ未熟な僕だけど

僕なりに成長してきたと思う

その成長してきた姿を

お母さんに見せたかったよ

『おまえは素晴らしい』って言って
くれたお母さん

その言葉は間違っていないなかったって

証拠を見せたかった

そしてそれを見せれないことが

残念だった

だけど最近気づいたんだ

お母さんは最初から

僕の素晴らしさを

見てくれていたんだよね

証拠なんてなくても

心の目でちゃんと見てくれてたんだよね

だってお母さんが

『おまえは素晴らしいんだから』

って言うときは

まったくの迷いがなかったから

お母さんの顔は確信に満ちていたから

僕も今

社員たちと接していて

つついその社員の

悪いところばかりに

目が行ってしまうことがある

つつい怒鳴ってしまうこともある

ただとお母さんの言葉を思い出して

心の目でその社員の素晴らしさを

見直すようにしているんだ

そして心を込めて言うようにしている

『きみは素晴らしい』って

おかげで社員達ともいい関係が築け

楽しく仕事をしているよ

これもお母さんのおかげです

お母さん

血はつながっていなくても

僕の本当のお母さん

ありがとう。

お読み頂いた内容は、『鏡の法則』などの著者野口嘉則氏が知人の話に
若干ストーリーを変えて紹介した感動ムービーをそのまま書き出した
もので、実際のムービーはインターネットのYouTubeで御覧板だけです。

予約席
yoyakuseki